

報第10号

令和8年度神奈川県教育委員会表彰（神奈川県優秀授業実践教員表彰）について

令和8年度神奈川県教育委員会表彰（神奈川県優秀授業実践教員表彰）について、神奈川県教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第2条第2項の規定により事務を臨時に代理し、次のとおり被表彰者を決定しましたので、同規則第2条第3項及び教育委員会の指示事項の1の(3)の規定に基づき報告します。

令和8年10月23日提出

神奈川県教育委員会
教育長 花 田 忠 雄

令和8年度神奈川県優秀授業実践教員表彰被表彰者一覧

第1部門 40名（小学校9名、中学校5名、高等学校26名）

	学校名	フリガナ 氏名	職名	教科等名	授業実践等の概要
1	葉山町立葉山中学校	ナガトモ タカヒロ 永友 貴大	総括教諭	国語	国語の授業において、各生徒が写真を選び大切な人に贈ることをテーマに、地域外部人材と連携・協力しながら授業を構成し、対話的な学びを通して生徒の思考を深める授業を実践している。
2	愛川町立愛川中学校	ツチモチ トモヤ 土持 知也	総括教諭	国語	国語の授業において、生徒主体のディベートを通じて論理的思考力を育成し、ICT機器の活用や多様な学習形態を取り入れながら、主体的・協働的な学びを促進する授業を実践している。
3	厚木市立戸田小学校	ミヤタ コウイチ 宮田 幸一	総括教諭	(総合的な学習の時間)	総合的な学習の時間の授業において、地域教材やICT機器を活用して児童の興味・関心を高めるとともに、ティームティーチングで児童の発言を丁寧に拾い上げ、児童主体の授業を実践している。
4	厚木市立飯山小学校	クサカ ヒロカツ 日下 浩一	教諭	(総合的な学習の時間)	総合的な学習の時間において、児童にとって身近な物事と、単元の学習内容を関連付けることで、自分事として捉えさせ、児童の主体性や課題解決力を育む授業を実践している。
5	厚木市立毛利台小学校	タカハシ リョウタ 高橋 亮太	総括教諭	(算数)	算数の授業において、優れたファシリテーション能力を発揮し、実態に応じた声掛けをしたり、対話的な学びの場を設けたりする等、個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指す授業実践を行っている。
6	座間市立中原小学校	ナナサワ ノボル 七澤 昇	教諭	(国語)	国語の授業において、ICT機器を活用し、児童の意見を視覚化して協働的な学びを促進するとともに、深い信頼関係により、児童が安心して参加できる環境が整った授業を実践している。
7	大和市立下福田小学校	オカベ テハル 岡部 千春	教諭	(音楽)	音楽の授業において、楽譜に様々な書き込みや色づけを行う等、児童が視覚的に理解しやすい教材づくりを工夫し、児童が見通しをもって意欲的に参加できる授業を実践している。
8	伊勢原市立成瀬中学校	イセ コウキ 伊勢 亨樹	教諭	技術	技術の授業において、計測・制御に関するプログラミングを通して、生徒が主体的に問題解決に取り組めるよう丁寧な説明と個別対応を行い、多様な生徒のニーズに合わせた柔軟な授業を実践している。
9	二宮町立一色小学校	アンドウ ミチアキ 安藤 通晃	総括教諭	(理科)	理科の授業において、環境問題と単元の学習内容を関連づけることで、児童の興味・関心を高めるとともに、独自の動画教材やICT機器を活用し、各児童の思考を深める授業を実践している。
10	小田原市立富士見小学校	イセヤ ヒロコ 伊瀬谷 寛子	総括教諭	(国語)	国語の授業において、特別支援教育に関する専門的な知見を踏まえ、丁寧に適切な支援を行うとともに、児童の発達段階に応じた教材づくりの工夫により、児童が主体となった授業を実践している。

	学校名	フリガナ 氏名	職名	教科等名	授業実践等の概要
11	南足柄市立南足柄中学校	タナカ リョウコ 田中 涼子	総括教諭	外国語 (英語)	英語の授業において、優れた情報収集力やファシリテーション力を発揮し、多様な資料や動画を提示しながら、生徒の話す・聞く・書く活動をバランスよく構成し、言語活動が充実した授業を実践している。
12	中井町立井ノ口小学校	シマダ ユカ 島田 由香	教諭	(音楽)	音楽の授業において、児童の実態を的確に把握し、学習活動に工夫を凝らしているほか、児童同士の学び合いを通して、児童が自己肯定感や達成感をもつことができる授業を実践している。
13	横須賀市立諏訪小学校	ノダ マリ 野田 真理	教諭	(国際教室)	国際教室の授業において、外国籍児童の安心感を重視し、児童の思いに寄り添い、個の理解度に応じた課題を設定しているほか、教員間連携も密に行い、基礎学力向上につながる授業を実践している。
14	横須賀市立長沢中学校	フジイ リョウヘイ 藤井 亮平	総括教諭	数学	数学の授業において、生徒主体の進行により主体性と課題解決のための思考力を育むとともに、生徒同士が学び合うことにより自然と基礎学力が定着するよう、協働的な学びを促進する授業を実践している。
15	県立神奈川工業高等学校	ウサイダヤ タケシ 兎田谷 健	総括教諭	工業 (デザイン)	工業の授業において、作図方法の習得を目標に、ICT機器を活用してライブ動画配信を行い、生徒が手順を確認しながら作業できる環境を整えているほか、丁寧な個別指導により主体的な学習を支援する授業を実践している。
16	県立神奈川工業高等学校	クリヤマ ヒロキ 栗山 博樹	総括教諭	工業 (建設)	工業の授業において、「構造物に働く力」の支点と反力への理解を深めるため、ICT機器を活用しながら教材提示の方法を工夫し、生徒が主体的に問題解決に取り組む態度を育む授業を実践している。
17	県立神奈川工業高等学校	ヤハギ サヤカ 矢萩 紗耶香	教諭	国語	国語の授業において、生成AIを活用し、生徒がAIと対話しながら志望理由書作成に必要な視点に気づく活動を取り入れ、生徒が意欲的に参加できる授業を実践している。
18	県立横浜翠嵐高等学校	モリヤ タカノブ 守屋 崇伸	教諭	理科	理科の授業において、ICT機器や独自開発のWeb教材を活用し、生徒が主体的に考察し、意見を交流させることができる環境を整え、協働的な学びを促進する授業を実践している。
19	県立光陵高等学校	ヤナギタ ショウタ 柳田 章太	教諭	保健体育	保健の授業において、健康に関するデータ分析活動を、生成AIを活用して効果的に支援し、分析結果をもとに課題への解決策を生徒が探究することで、課題解決力を育む授業を実践している。
20	県立港北高等学校	カトウ サトシ 加藤 慧	総括教諭	理科	理科の授業において、単元の学習内容を、生徒にとって身近な物事や現象と関連付けることで、興味・関心を高め、生徒の主体的な姿勢を引き出す授業を実践している。

	学校名	フリガナ 氏名	職名	教科等名	授業実践等の概要
21	県立市ケ尾高等学校	スズキ ジュンヤ 鈴木 順哉	教諭	理科	理科の授業において、生徒が自己の在り方や生き方を考えながら捉えることができるとともに、感性や問題意識が揺さぶられるような問いを設定し、学びに向かう力・人間性等の涵養につながる授業を実践している。
22	県立川和高等学校	ナカイ マリカ 中井 麻莉佳	教諭	地理歴史	地理歴史の授業において、発問を工夫することでクラス全員で考え意見等を交流させることで、生徒が多様な見方や考え方を受容し、自己の考えを再構築することができる授業を実践している。
23	県立川和高等学校	アリミツ ユミ 有光 裕美	教諭	外国語 (英語)	英語の授業において、ディベート活動における意見の論理性を高めるためにOREOを提示する等、指導方法や教材を工夫し、生徒が意欲的に英語で発話する授業を実践している。
24	県立柏陽高等学校	ミズムラ 水村 こずえ	教諭	理科	理科の授業において、十分な教材研究に基づき、生徒の理解度や課題感に応じた教材を作成しているほか、学習指導要領に即した指導計画に基づき、評価規準を生徒と共有する等、見通しある授業を実践している。
25	県立横浜修悠館高等学校	ユウキ カオリ 結城 佳織	教諭	保健体育	体育の授業において、丁寧な説明や適切な声掛けを通して、信頼関係を築き、生徒の心理的安全性を十分に確保しているほか、実態に応じた教材と指導計画で主体的な学びを促進する授業を実践している。
26	県立多摩高等学校	イナヅミ セイジ 稲積 清司	総括教諭	数学	数学の授業において、単なる知識の伝達や解法指導にとどまらず、生徒が主体となって新たに解法を見出せるよう工夫を凝らし、生徒自身が思考することを大切にする授業を実践している。
27	県立生田高等学校	ソネ ケンゴ 曾根 健吾	教諭	地理歴史	地理歴史の授業において、十分な教材研究に基づき、学習内容に応じて資料が精選されているだけでなく、生徒が多面的・多角的に思考できるよう、緻密に計画された授業を実践している。
28	県立大船高等学校	ノザワ ユウコ 野澤 祐子	総括教諭	家庭	家庭の授業において、調理実習では、明確な指示と適切な声掛けにより、十分な安全配慮を行っているほか、リフレクションシートを活用して主体的な学びを促進する授業を実践している。
29	県立小田原高等学校	ワタナベ リョウ 渡辺 伶	教諭	国語	国語の授業において、優れたファシリテーション能力を発揮し、場面ごとの進捗状況に合わせた声掛けを行うことで生徒同士の学び合いを活性化させ、対話的で協働的な学びを促進する授業を実践している。
30	県立西湘高等学校	イケジリ ナオフミ 池尻 直史	総括教諭	理科	理科の授業において、クイズを通して、生徒に疑問を持たせ、その疑問についてグループで協議し、実際に検証するといった探究的な活動を軸に、生徒の思考を深める授業を実践している。

	学校名	フリガナ 氏名	職名	教科等名	授業実践等の概要
31	県立相原高等学校	ヤマウラ クニヒロ 山浦 邦宏	総括教諭	理科	理科の授業において、学習目標を達成するための手立てとして、生徒が思考する場面、考えを共有する場面、考えを発表する場面をバランスよく配置し、生徒が意欲的に参加できる授業を実践している。
32	県立上溝高等学校	アキバ マキ 秋庭 真季	総括教諭	国語	国語の授業において、古典と現代社会を関連付け、生徒が自身の生き方や他者との関わり方にも考えを及ぼすことができるような、深い学びにつながる授業を実践している。
33	県立神奈川総合産業高等学校	キクカワ ショウタ 菊川 正太	教諭	理科	理科の授業において、生徒が主体的に考えること、思考の過程を論理的に説明することを重視し、生徒にとって身近な現象を教材に、自分事として捉え、意欲的に取り組むことができる授業を実践している。
34	県立麻溝台高等学校	ハマダ ミオ 濱田 美緒	教諭	外国語 (英語)	英語の授業において、どの学習段階の生徒も無理なく英文を理解できるよう入念に準備しているほか、パフォーマンステストを実施し、評価基準を事前に提示する等、緻密な指導計画に基づいた授業を実践している。
35	県立上溝南高等学校	ミチギシ コウヘイ 道岸 浩平	教諭	数学	数学の授業において、生徒が段階的に理解できるよう教材を工夫し、グループでの協議を軸とした協働学習を通じて、思考力や表現力を育む授業を実践している。
36	県立秦野高等学校	イハラ トシアキ 井原 俊明	教諭	外国語 (英語)	英語の授業において、ICT機器を効果的に活用することで、多くの活動を行い、生徒が英語を使用する時間を最大化するとともに、心理的安全性を確保し、生徒が英語を用いて積極的に発言できる授業を実践している。
37	県立厚木清南高等学校	アツミ カオリ 厚美 香織	総括教諭	数学	数学の授業において、生徒が将来をよりよく生きるために数学的な見方・考え方を身に付けてほしいという信念のもと、生徒が他者との議論を通して思考を深めるような対話的な授業を実践している。
38	県立大和高等学校	フルカワ リュウゾウ 古川 竜三	教諭	公民	公民の授業において、深い信頼関係の構築と丁寧な指示により安心感を与えるとともに、協働学習により生徒の多様な考えを交流させ、自己の考えを再構築できるような授業を実践している。
39	県立大和高等学校	イヌイ ヒロキ 乾 広樹	総括教諭	外国語 (英語)	英語の授業において、生徒の実態や身につけさせたい力を踏まえ目標を設定し、スモールステップでの指導を通して生徒の資質能力の伸長を図る授業を実践している。
40	県立相模原城山高等学校	コバヤシ ナオシ 小林 直志	教諭	数学	数学の授業において、ICT機器とアナログ機器を効果的に使い分け、グループワークを組み合わせながら、知識が定着するよう工夫を凝らした授業を実践している。

第2部門 20名（小学校1名、中学校1名、高等学校14名、中等教育学校1名、特別支援学校3名）

	学校名	フリガナ 氏名	職名	教科等名	授業実践等の概要
1	綾瀬市立綾北中学校	キムラ ヤスユキ 木村 泰幸	教諭	数学	数学の授業において、生徒に適した課題設定を行い、対話的な活動を取り入れることで、主体的な活動を促し、生徒の数学的思考力を高める授業を実践している。
2	伊勢原市立石田小学校	エノモト ダイキ 榎本 大貴	教諭	(生活)	生活の授業において、児童の考えや発言を重視し、地域資源を活用した多角的な学びを展開している。温かい雰囲気の中で主体的な活動を促し、寄り添う支援で全員の参加を促す授業を実践している。
3	県立神奈川工業高等学校	トクダ マミコ 得田 真実子	教諭	外国語 (英語)	英語の授業において、単語や熟語の確認、英文の内容確認など、ICTを効果的に活用し、テンポよく授業を行っているほか、対話学習で理解度を高め、英語への苦手意識を払拭する工夫を凝らした授業を実践している。
4	県立横浜翠嵐高等学校	ヤツモト ユウシ 八本 侑士	教諭	地理歴史	地理歴史の授業において、教科指導における高い専門性を発揮し、資料活用や対話学習で多面的な考察を促しているほか、教材や発問の工夫により、学びの面白さ・奥深さを生徒に実感させる授業を実践している。
5	県立横浜国際高等学校	ヨシナカ マナエ 吉中 真菜恵	教諭	国語	国語の授業において、論理的文章の構成を視覚化するワークシートを用いる等、教材に工夫を凝らしているほか、細やかな机間指導でグループでの議論を適切に指導し、主体的な学びを支える授業を実践している。
6	県立光陵高等学校	シマスキ リュウタ 嶋貫 龍太	教諭	数学	数学の授業において、生徒が課題に対し協働的に理論を形成するといった探究的な活動に取組み、結果について数学的な根拠や理論と結びつけることで、思考を深める授業を実践している。
7	県立青葉総合高等学校	ヨコイ リキヤ 横井 力也	教諭	地理歴史	地理歴史の授業において、視覚資料や工夫した発問で主体的・対話的な学びを促進し、生徒の多様な興味関心に対応し、歴史的事象の因果関係を多角的に考察させる授業を実践している。
8	県立青葉総合高等学校	ミヤザワ キョウ 宮沢 季緒	教諭	芸術（書道）	書道の授業において、書画カメラを活用して運筆等の手本を示しながら、自校の校歌を題材にして生徒自身が作品を構想する学習活動により、生徒の意欲的な表現活動を促進する授業を実践している。
9	県立荏田高等学校	ヤマサキ ミク 山崎 未来	教諭	国語	国語の授業において、ジグソー法を活用し、多角的な視点から古典作品を現代生活に結び付けて考察させ、細やかな支援で議論を促進し、生徒の見方・考え方を深化させる授業を実践している。

	学校名	フリガナ 氏名	職名	教科等名	授業実践等の概要
10	県立柏陽高等学校	ヨシオカ 吉岡 ひかり	教諭	外国語 (英語)	英語の授業において、生徒の理解度に応じた発問や豊富な活動で思考力を育てているほか、個別支援と協働学習の調和を図りつつ、効果的に生徒の資質能力の向上を目指す授業を実践している。
11	県立百合丘高等学校	イノウエ ショウ 井上 奨	教諭	数学	数学の授業において、授業を最適化することで、生徒が思考する時間を多く確保でき、対話学習で数学的な見方・考え方を育む授業を実践している。
12	県立大船高等学校	カサ コウイチロウ 笠 幸一郎	教諭	国語	国語の授業において、ジグソー法の導入により多角的な視点で作品を捉えさせるとともに、ICT機器の活用と机間指導を通して、グループワークが建設的な議論となるよう工夫を凝らした授業を実践している。
13	県立小田原高等学校	ホリ マサユキ 堀 誠幸	教諭	理科	理科の授業において、ICT機器を活用し理解を促進しているほか、練習問題や発問を工夫することで、生徒が既習事項を活用しながら思考力・表現力を深めることができる授業を実践している。
14	県立相模原高等学校	ミヤザワ ジュン 宮沢 純	教諭	地理歴史	地理歴史の授業において、歴史的な知識の習得・定着を目指すだけでなく、豊富な知識に裏付けられた発問や資料により、生徒が歴史的事象を主体的に探究できる授業を実践している。
15	県立厚木清南高等学校	ワタナベ トモキ 渡邊 知樹	教諭	公民	公民の授業において、協働学習に取り組む、生徒が主体的に意思決定と合意形成を行い、政治の身近さに気付きながら自分事として問題解決を図ることができる授業を実践している。
16	県立座間高等学校	イトウ ハルキ 伊藤 晴樹	教諭	外国語 (英語)	英語の授業において、英文の前後関係を手掛かりに単語の意味を推測する方法を指導し、初見の英文でも内容理解できる思考力・判断力の向上に努め、生徒が粘り強く会話練習に取り組めるような、適切な声掛けによって授業を実践している。
17	県立平塚中等教育学校	サクマ トモアキ 佐久間 智彬	教諭	社会	社会の授業において、ジグソー法を効果的に活用し、学習指導要領が示す単元のねらいに適したワークシートやグループ編成の工夫により主体的な学びと思考力を育む授業を実践している。
18	県立武山支援学校	マジマ リサ 眞島 梨沙	教諭	特別支援	音楽の授業において、深い児童理解に基づいた授業展開をしているほか、目標の達成に向け、行事と教科学習を関連させ、児童の学習意欲を引き出す授業を実践している。
19	県立相模原中央支援学校	スギモト カズキ 杉本 佳月	教諭	特別支援	国語の授業において、聴覚障害教育部門の児童の聞こえの状態を踏まえ、手話、指文字、音声言語等を併用しながら、平易な言葉で説明する等、実態に応じた多様な言語支援を行い、語彙の獲得や理解を促進する授業を実践している。

	学校名	フリガナ 氏名	職名	教科等名	授業実践等の概要
20	県立横浜ひなたやま支援学校	クボ ナツホ 久保 夏帆	教諭	特別支援	美術の授業において、生徒が造形の面白さを実感できる題材選定や、生徒同士がやり取りし、互いの作品を褒め合える作品の展示方法等、主体的な学びを実現するための工夫を凝らした授業を実践している。

令和8年度神奈川県優秀授業実践教員表彰 制度の概要及び審査経過

1 制度の概要

(1) 趣旨

教員の人材育成施策の一環として、学校教育における授業実践に優れ、教員の模範として推奨すべき者を表彰し、顕彰するとともに、教員全般の意欲及び資質能力の向上に資する。

(2) 導入年度

平成19年度

(3) 対象者

県立学校及び市町村立学校（横浜市立、川崎市立、相模原市立の学校を除く）の総括教諭、教諭、養護教諭、栄養教諭、助教諭、養護助教諭及び常勤講師

(4) 表彰候補者の基準

優れた授業の実践が顕著な者（教科指導、特別支援教育に関する指導、保健に関する指導、食に関する指導等）

(5) 部門の内容（表彰する年度の4月1日時点）

第1部門：総括教諭又は教職経験10年以上かつ35歳以上である者

第2部門：教職経験10年未満又は35歳未満である総括教諭ではない者

2 審査経過

- ・ 4月：市町村教育委員会及び県立学校長に対し推薦を依頼
- ・ 5月：県教育委員会に推薦書を提出
- ・ 6～8月：各所管機関において、表彰候補者に対する授業観察及び予備審査を実施
 - ・ 市町村立学校：各教育事務所、横須賀市教育委員会
 - ・ 県立学校：高校教育課、保健体育課、特別支援教育課、総合教育センター
- ・ 8月：審査会の実施
- ・ 9月：審査会（座長：教育局長）の意見具申をもとに教育長が被表彰者を決定

3 被表彰者数

表彰年度 部門 校 種	令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度	
	第1部門	第2部門	第1部門	第2部門	第1部門	第2部門	第1部門	第2部門
小 学 校	5	3	4	4	6	4	9	1
中 学 校	3	3	4	2	1	1	5	1
高等学校・ 中等教育学校	8	17	11	13	11	16	26	15
特別支援学校	3	3	1	2	0	4	0	3
合 計	19	26	20	21	18	25	40	20

※ 令和8年度被表彰者の年齢等内訳（令和8年4月1日現在）

年齢構成	20代	30代	40代	50代	60代	合計
第1部門 平均年齢：41歳 平均教職経験年数：16年	0	15	22	3	0	40
第2部門 平均年齢：31歳 平均教職経験年数：7年	3	17	0	0	0	20
合 計	3	32	22	3	0	60

4 被表彰者の活用（令和7年度被表彰者の実績）

(1) 校内や校外の教員に対する積極的な授業の公開

被表彰者に対し、各学校の校内で決まった期間に相互に授業を見学する機会や、初任者研修の他校訪問などの機会を積極的に活用し、受賞の翌年度末までに授業公開を1回以上行うことを義務付けている。

ア 授業の公開の実績（令和8年10月以降実施予定分を含む）

(7) 校内向け又は校外向けに行う授業の公開

	校内向け公開	他校向け公開	全ての授業の公開
実施総回数	161回	31回	192回
指導案を作成する	60回	22回	82回
指導案を作成しない	101回	9回	110回
参観総人数	637人 参観	372人 参観	1,009人 参観

(4) 被表彰者一人あたりの平均実施回数及び1回あたりの平均参観人数

	小学校	中学校	高等学校・ 中等教育学校	特別支援学校	全校種合計
一人あたりの 平均実施回数	11.9回	3回	2.6回	1.8回	4.5回
1回あたりの 平均参観人数	4.0人	10人	6.8人	7.9人	5.3人

イ 主な活用の結果、感想等

- ・ 表彰を受けたことを契機に、同じ教科の教員が同様の取組を授業に取り入れるなど、実践の共有が進み、教科内における授業改善につながった。また、教科に関する知見を活かす動機が高まり、専門部会への参加や、県の業務依頼を引き受けることに繋がった。

- ・ 表彰を受けたことがきっかけとなり、経験の浅い教員が、日常的に授業を参観するようになった。授業づくりについて学ぶ良い機会となっている。
- ・ 本表彰の受賞を契機に、自身の教育実践について深く見つめ直し、更なる授業改善や自己研鑽への意識が高まった。受賞を新たな成長の機会として捉え、教育活動の質の向上に継続的に取り組んでいる。
- ・ 本表彰をきっかけとして、自身の授業実践を改めて整理・言語化し、初任者研修において「教育相談コーディネーターの視点を生かした授業づくり」をテーマに研修講師を務めた。自身の実践を基に、生徒のニーズに応じた支援を行うための視点について共有した。

(2) 教員研修等における講師に係る実績

総合教育センター等が実施する研修等に、毎年、一定の被表彰者の活用を義務付けている。

ア 基本研修における講師（3名）

- ・ 内 容 模範授業
- ・ 受講者 5名（高等学校 家庭）
- ・ 受講者 29名（高等学校 理科）
- ・ 受講者 44名（高等学校 数学）

イ フレッシュティーチャーズキャンプ（新規採用予定者研修）における講師（4名）

- ・ 内 容 優秀授業紹介
- ・ 受講者 ※令和9年2月20日・2月27日実施予定のため、現時点で受講者数未定

(3) 被表彰者インタビュー記事の作成及び公開（令和8年度より実施）

ア 趣旨

被表彰者の活用拡大の一環として、被表彰者のインタビュー記事を作成・公開することで、教員全般のモチベーション向上や本表彰の認知向上に繋げていく。

イ 対象者

各所管における予備審査の評価が高かった者から、教科の重複や部門の偏り等を考慮した上で、県立学校から5名（高等学校4名、特別支援学校1名）及び市町村立学校から5名（各教育事務所及び横須賀市教委から1名ずつ）を選出。

ウ 公開内容

各被表彰者が、日頃から行っている授業実践の工夫や授業改善に係る取組等、教員全般のモチベーション向上と本表彰事業の広報につながる内容。

エ 公開方法

- [県立学校] 県教育委員会ネットワークシステムポータルサイトに掲載。
[市町村立学校] 市町村立学校長あて事務連絡により校内での周知を依頼。

5 今後の予定

- ・ 11月12日（木） 表彰式 神奈川県庁本庁舎3階 大会議場 16時00分～17時00分